

エー A ジー G ファイブ 5 だよ

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 (<https://ag-5.jp>)



補習授業校は止まらない

AG5運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談員 佐々信行

新型コロナウイルスの感染が世界に広がり、多くの学校が突然の休校を余儀なくされました。補習授業校も例外ではありません。これまでに例のない緊急事態に、生かせる経験もなく、先行きの見通しが立たない中で、補習授業校はさまざまなアイデアを動員して対応しています。先生、保護者、運営委員など、関係する方々の素晴らしいチームワークが見られています。

はじめに

三月になって、アジア、北米、ヨーロッパのほとんどの国で、新型コロナウイルス感染症対策として学校を閉鎖する措置がとられました。

補習授業校のほとんどが借用校舎で授業をしていますので、授業を継続することは物理的にも不可能になりました。正規の学校ではないので、当面休校でも仕方のないところかもしれないませんが、多くの補習授業校は素早く体勢を整え、子どもたちに学習を続けさせました。海外に住む子どもたちにとって、補習授業校は週に一回であっても日本語で生活し、日本語で学ぶ貴重な機会です。それに替わるものはありません。補習授業校が驚くほどのスピードで対応したのは、先生方、保護者の方々、運営に関わる皆さんが補習授業校をかけたえのないものだと考えていることの現れだと思っています。

最初の情報交換会

AG5では、二〇一九年度までにたくさんさんの補習授業校の先生方と一緒に研究を進めてきました。本年四月五日、その先生方が所属する補習授業校に声をかけ、「AG5補習授業校情報交換会(ウイルス対応策)」

を開きました。三十六校五十六人の先生や管理者の皆さんがオンラインミーティングに集まりましたが、この時点で、すでに多くの補習授業校が具体的な方策を実施していました。郵便やEメールでの教材や課題の送付。

- ・ オンライン授業の実施。
- ・ 電話やオンラインでの個別指導。
- ・ ビデオ授業の配信。
- ・ オンラインホームルームの実施。

どんな方法が考えられるか、どんなツールが使えるのか、どんな問題点があるのか、たくさんさんの報告と活発な質疑応答がありました。

いくつかの補習授業校は登校できない間の方針をすでに文書に示していました。これから方針を示さなければならぬ学校にとってはありがたいお手本です。また、オンライン授業を試みた先生からは気づいた利点や問題点の報告がありました。参考になるウェブサイトのリストはA4で五ページにも及びました。

この時点では、登校できないのは四月いっぱいぐらいではないかと多くの補習授業校が予想していたようです。しかし事態は深刻になり、多くの地域で借用校舎が夏まで使えないことが決定的になりました。流通が止まり教科書が届かない、教科書

の保管先が立ち入り禁止になり教科書を配付できない等の悩みを抱える補習授業校もありました。

シリーズになった情報交換会

第一回情報交換会はアメリカの話が中心になったので、次回はヨーロッパ地区の情報交換をという要望があり、第二回は四月十三日に「ヨーロッパ地区補習授業校情報交換会」を、そして、その後オンライン授業の難しさが浮かび上がってきたことから第三回は四月二十二日に「オンライン以外の選択肢」をテーマに開催しました。各校の取り組みが進み、経過報告や実践報告を交えた活発な情報交換が行われました。国や地域によっていくらか違いはあるものの、休校期間が長くなることを覚悟しなければならぬ状況になりました。その間の対応策として、遠隔授業やオンラインでの行事の実施が話題の中心になりました。

〈オンラインミーティングシステムの活用〉

- ・ 子どもたち同士のコミュニケーションにも便利。
- ・ どのシステムを利用するか。
- ・ 家庭のIT環境が十分でない場合がある。
- ・ 兄弟姉妹がいる場合、複数のデバ

イスが必要になる。
慣れていない先生のトレーニングが必要。

〈録画配信を活用する〉

- ・再生して見るだけならスマホでも十分。どの家庭でも対応できる。
- ・ネット環境に左右されることが少ない。

・子どもが何人いても、時間をずらして利用すればよい。

- ・途中で止めたり、繰り返し再生したりしながら学習を進められる。
- ・録画でも子どもは自然に反応する。

・原則として欠席は生じない。

〈LineやSkypeなどの音声電話やテレビ電話を利用する〉

- ・児童生徒一人ひとりのつながりを持つことが大事。

・練習しなくてもすぐ使える。

他校の例を参考にしながら各校でそれぞれの実情に合わせて体制の整備が進みました。形は違っても、ほとんどの学校で何らかの形でＩＴを活用する対応になりました。

ＩＴ企業に勤める保護者がシステムの設定や先生たちのトレーニングを引き受けるという、補習授業校らしい展開もありました。四月の終わりごろまでには、多くの補習授業校で新年度の授業が始まりました。

オンラインで始業式や入学式を行

った補習授業校もありました。子どもたちはモニターの前で返事したり校歌を歌ったりして、日本の学校文化の一端を体験できたようでした。「登校しない」授業で保護者の理解が得られるか、退学する児童生徒が出るのではないかという心配もありましたが、保護者の反応は概ね肯定的で、このために退学するというケースはほとんど見られませんでした。逆に、帰国や転居のために一度退学した子どもが、離れた場所からオンラインで一緒に授業を受けているという楽しい報告もありました。

経験を踏まえて

いくらか経験が蓄積され、五月五日の第四回「今伝えたいこと、聞きたいこと」、五月十三日の第五回「遠隔授業と『評価』」では具体的な話し合いになりました。オンラインミーティングのツールを使いこなすための技術的な情報交換もあり、自校のために作成したマニュアルを提供してくれる学校もありました。

実践していく中で、遠隔授業の難しさや問題点も指摘されるようになりました。

・授業の準備をするのに先生たちに大きな負担がかかっている。

・子どもが長時間モニターを見続け

ることで健康に問題は起きないか。子どもたちの学習への取り組みに関する評価はどうしたらよいか。

- ・遠隔授業でテストはできるのか。
- ・遠隔授業で登校しての授業と同じように成績をつけることは妥当か。
- ・運動会のようにみんなが楽しめる行事を工夫することはできないか。

遠隔授業の評価について考えることで、「そもそも評価とは何か」を考え直す機会にもなりました。

日本国内では長期間の休校に伴う「学習の遅れ」をどうするかが問題視され、来年度の学年開始を九月にする案等が取り沙汰されるようになりました。補習授業校では「形は違っても学習は進めている。登校が可能になったら年間計画のその時点の学習から授業を進める」という方針の学校が少なくありませんでした。

新しい方法の発見

遠隔授業について考えたり試したりして分かったことは「教室の授業に取って代わるものではない」ということです。コンピュータの画像と音声で伝えられるものは限られません。教室という一つの空間で三六〇度の空気を感じながら伝えられるものとは比べものになりません。

教室に集まるときにはオンライン

ンもビデオも使わないでやっていくので、遠隔授業の経験のある先生は多くありませんでした。ところが、必要に迫られて取り組んでみると、遠隔授業には、教室では不可能なことができる利点もあることが分かってきました。

ある先生は、教室ではほとんど発言することのない子どもが、オンラインの授業では声を聞かせてくれることに気がつきました。みんなの前に立つと固まってしまつて声が出せなくても、オンラインでは実際にそこにいるのは自分一人だし大きな声を出す必要もないので、かえって話しやすいようになるようです。

ある補習授業校では、同学年の二つのクラスを合わせて、二人の先生が指導するという方法を試しました。

一人が授業を進めている間にもう一人の先生は児童生徒一人ひとりの様子を見ることにしました。すると、一人で授業しているときには気づけなかった子どもへの反応に気がついたり、授業が進んでいる間に個人的な質問に答えることができたりして、いつもと違う授業の展開になったそうです。普段は二人の先生が国語と算数のそれぞれの授業の準備をするところ、一つずつの準備で済むので効率的な一面もあるとのことでした。

ある中学生は、普段の国語の授業ではなかなかみんなのスピードについていけなくて日本語に自信を失いかけていました。ところが、ビデオ授業になると、自分のペースで学習を進めることができ、自分の日本語がかなりのレベルにあることが再認識できたようです。この生徒はハイスクールで「AP Japanese」を選択し、日本語を自分の強みにしていこうと決心し、先生に「ビデオ授業がなかったら私は多分日本語をあきらめていた」と語ったそうです。

遠隔授業のさまざまな対策は、「教室の授業の代用」ではなく、それ自体を新しい教育の方法と考えると、教室の授業が再開してからもいろいろと生かしていけそうです。

またICT教育という費用がかかりそうなイメージがありますが、工夫次第でありお金をかけずにできることが結構あるのです。「写メの活用」などはその代表でしょう。

その先につなげる

情報交換会の資料はその都度AG5のウェブサイトで公開しています。情報交換会に参加されなかった学校からも「参考になった」という声が届いています。参加者たちは、力を合わせることで道を切り開くことが

できることを実感しました。

お互いにもっと知り合いたいということで、第六回は少しリラックスして「元氣の出る話」を聞き、グループで自由に話し合う会にしました。遠隔授業をやってみた手応えを話してくれた人もあれば、ネコ自慢・イヌ自慢の楽しい話もありました。毎朝森を散歩するというスイスからの話はみんなをうらやましながらせましたが、「美しい写真に元氣が出た」という感想が聞かれました。そして、この回から少人数で自由に話し合う時間を設けました。先生たちは、場所も規模も違う別々の補習授業校で働いていますが、「日本語で子どもたちを育てる」という同じ目的を持つ一体感を共有しました。

オンラインミーティングでの距離を超えた交流はウイルス対策に限らず、補習授業校の先生たちの大きな力の源になるにちがひありません。補習授業校情報交換会は次の点にも配慮し、参加者の輪を広げながら継続していきたいと思えます。

- ・関心の高いテーマは、繰り返し話題にしてい
- ・直接関わっている人が少ないテーマも積極的に取り上げていく。
- ・出席者同士が知り合い、親しくなることを目的とする活動も取り入

れていく。

なお、日時やテーマ等の詳細は、「補習校教員交流Facebook」でお知らせします。

悪いことばかりではない

AG5では、一八年からオンラインミーティングで研究会や報告会を行ってきました。課題の一つは、補習校の先生方にまずそのミーティングに接続していただくことでした。何事も最初の一步を踏み出すには気持ちの面で一つのハードルを越えなければなりません。コンピュータの向こう側に誰がいるか分からないという一種の恐怖感の克服も必要です。ところが新型コロナウイルスによる緊急事態になり、子どもたちのためには躊躇している場合ではないと、世界中で多くの先生方が一気にハードルを越えました。情報交換会参加者の累計は二回目まで百名を超え、今も増えつづけています。

AG5で二〇年度に計画している「学習活動計画の作成」「初任者研修会」などの事業にもたくさんの方々に参加していただいています。参加者の所属校はアジア、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、北米、中南米と世界中に広がっています。ある校長先生が、「この危機を通


して、先生、保護者、運営委員など皆さんの結びつきがさらに強くなりました」と話しておられました。補習授業校の危機はまだ終わっていませんし、また新たな危機がやってくるかもしれません。しかし、このチームワークがあれば、危機に負けないだけでなく、そこから新しいものを生み出していくこともできるでしょう。補習授業校は止まりません。

- 〈参照ください〉
- AG5ウェブサイト
<https://www.ag-5.jp>
- AG5 補習授業校情報交換会資料
<https://www.ag-5.jp/post/detail/13>
- 補習校教員交流Facebook
<https://www.facebook.com/groups/166412650300837/>

情報交換会資料 1


AG5 補習授業校情報交換会 #5
遠隔授業と「評価」


各地の開始時刻 2020年5月13日(水)	
USハワイ	4:00AM
US太平洋	7:00AM
US山岳部	8:00AM
US中部	9:00AM
US東部	10:00AM
英国等 (西ヨーロッパ)	3:00PM
仏独等 (中央ヨーロッパ)	4:00PM
タイ等	9:00PM
中国等	10:00PM
日本	11:00PM



マイクのミュートを解除してお話してください。

<画面の設定>
右左/左上のボタンや画面スワイプで切り替わります。

 **スピーカー・ビュー**
話している人が大きく見えます。

 **ギャラリー・ビュー**
多くの参加者の表情が見えます。